



御霊の鎮魂と海洋永久の平和を祈り黙とうを捧げる

第53回戦没・殉職船員追悼式は、初夏の強い日差しの中、5月14日、東京湾口の船舶が行き交う浦賀水道を望む、神奈川県立観音崎公園「戦没船員の碑」（横須賀市）で、全国各地からご遺族はじめ行政関係者、海事関係団体ならびに業界代表者、約350人が参列し例年どおり盛大に執り行われた。

式典に先立ち、海上自衛隊横須賀音楽隊による「真白き富士の嶺」「椰子の実」「千の風になつて」の曲が、おごそかに演奏されると、参列者は静かに聴き入った。

式典は午前11時にはじまり、国家斉唱、黙とうに続き、会長式辞、内閣総理大臣追悼の辞が捧げられた。

海上自衛隊横須賀音楽隊による、海に殉じた人々へのレクイエム（鎮魂曲）『君は帰る母なる海へ』が演奏される中、会長、戦没・殉職船員遺族代表、海事振興連盟、各界代表に続いて参列者全員が、慰霊碑に白菊を手向けるとともに、観世一門による能楽「海霊」を奉納。戦没・殉職船員の御霊の鎮魂と海洋永久の平和を願って、祈りを捧げた。

## 海洋永久の平和を 第53回戦没・殉職船員追悼式

観音崎公園

# 潮騷

第 60 号  
令和 8 年  
8 月 1 日

公益財団法人 日本殉職船員顕彰会  
〒102-0083 東京都千代田区麹町四丁目五  
電話 〇三・三三三・四〇六六二  
FAX 〇三・三三三・四〇六八二  
海事センタービル

8/21～8/31

入場無料



魚雷攻撃により棒立ちとなって沈没する「ぶらざる丸」

江戸川区立 タワーホール船堀

大阪商船（現・商船三井）の嘱託画家・大久保一郎画伯は、戦況が悪化した昭和17年、当時の岡田永太郎社長から「次々に沈められる社船の最期を記録にとどめるように」と言われ、生還した船員から遭難状況などの生々しい証言を克明に聞きとって、記録画として書き残した。

無料公開される遺作37点は、いずれも先の大戦で、そのほとんどが海の藻屑となった戦時徴用船の壮絶な最期と乗組員の悲惨な実相を伝える貴重な資料です。

### 会期

8月21日（金）から  
8月31日（月）まで  
・開館時間は 10時00分から 18時00分まで  
・初日の 8月21日（金）は、13時00分開場  
・最終日の 8月31日（月）は、16時00分開場

### 会場

江戸川区立 タワーホール船堀  
1階 展示ホール 1

### 主催

（公財）日本殉職船員顕彰会

※都営新宿線「船堀駅」北口より徒歩1分

知られざる民間船舶の悲劇、  
大久保一郎画伯遺作  
第52回 戦時徴用船遭難の記録画展

# 波静かなれとこしえに

## 第53回戦没・殉職船員追悼式

式典は、強い日差しが照りつける、神奈川県立観音崎公園の「戦没船員の碑」で、井上登志仁理事長の開式の辞に続いて国歌斉唱の後、「国の鎮め」の演奏にあわせ、戦没・殉職船員6万3620名の鎮魂と永久の平和を祈念して黙とうを捧げた。

日本殉職船員顕彰会を代表して、池田潤一郎会長が式辞を、国を代表して内閣総理大臣追悼の辞を佐々木紀国土交通副大臣が代読した。

◎式 辞 池田潤一郎 会長



本日ここに、第53回戦没・殉職船員追悼式を執り行うにあたり、全国各地から、ご遺族をはじめ関係者の方々のご参列を賜りましたことに、心より感謝申し上げます。

本年もまた、戦没船員の碑にあらたに殉職船員2人の名簿を奉安いたしました。これにより先の大戦で、物資などの輸送に従事し、戦禍の犠牲となった戦没船員6万643人と、海難などにより殉職された船員2977人の尊い御霊が、安らかに眠っております。

今日、幾多の困難を克服し、海洋国家日本として、平和と繁栄を享受できているのは、志半ばで海に散った戦没船員と、わが国の復興を支え

た、海運・水産業で、不幸にしてその職に殉じられた船員の尊い犠牲とご功績のうえにあることを決して忘れてはなりません。

ここにあらためて、深く哀悼の誠を捧げるとともに、かけがえのない家族を失った深い悲しみに耐え、幾多の困難を乗り越えてこられたご遺族の皆様は、戦争の記憶は年を追って薄れていきますが、戦争の悲

◎内閣総理大臣追悼の辞

佐々木紀 国土交通副大臣代読



第53回戦没・殉職船員追悼式が挙行されるに当たり、謹んで追悼の言葉を申し上げます。

先の大戦においては、6万人余りの船員の方々が、祖国を思い、家族の行く末を案じながら、尊い命を失われしました。戦後も、海難事故や労働災害により2千9百人を超える船員の方々がその職に殉じられてい

た、海運・水産業で、不幸にしてその職に殉じられた船員の尊い犠牲とご功績のうえにあることを決して忘れてはなりません。

私たちは、戦没・殉職船員の御霊の慰霊・顕彰と海洋国家日本の永久の平和と安全を祈念していくことを、ここにお誓いいたします。

安らかにねわれ わが友よ

波静かなれ とこしえに

ご参列いただいた皆様とともに、この碑に刻まれた御霊への祈りを捧げ、本会を代表しての式辞といたします。

ます。

今日の平和と繁栄は、海とともに生きた多くの方々の尊い犠牲の上に築かれたものであります。私たちは、そのことを、しっかりと心に刻み続け、決して忘れることはありません。戦没・殉職船員の御霊に対し、ここに改めて、衷心より、哀悼の誠を捧げます。

中東地域をはじめ、未だに争いが絶えることのない世界の中にあって、祖国の未来を想い、蒼海に眠る船員の方々の御霊の御前で、恒久の平和と海上交通の安全に全力を尽くして参りますことを、改めてここに固くお誓いいたします。

戦没・殉職船員の方々の御霊の永遠に安らかならんことを改めてお祈り申し上げるとともに、御遺族の皆様は、戦争の記憶は年を追って薄れていきますが、戦争の悲

# 献花を捧げる

海上自衛隊横須賀音楽隊による鎮魂曲「君は帰る母なる海へ」が、おそ

かに演奏される中、献花が行われた。  
日本殉職船員顕彰会を代表して池田潤一郎会長に続いて、ご遺族を代表して戦没船員遺族の島一角さんと石川眞佐子さん、殉職船員遺族の里見一矢さんと中田まつみさんが白菊を捧げた。

## ◎来賓・各界代表献花者(敬称略)

島 一角 (戦没船員遺族代表)

石川眞佐子 (戦没船員遺族代表)

里見 一矢 (殉職船員遺族代表)

中田まつみ (殉職船員遺族代表)

佐々木 紀 (国土交通副大臣)

宇佐美和里 (海事振興連盟)

後藤茂之(会長名代) 事務局長

加藤 雅徳 (日本船主協会副会長)

枝元 真徹 (大日本水産会会長)

松浦 満晴 (全日本海員組合組合長)

酒井智代子 (全国海友婦人会会長)

田中 茂 (横須賀市長代理 市長特別顧問)

五十嵐 敬 (神奈川県横須賀土木事務所長)

佐塚 昌弘 (神奈川県横須賀南警察署長)

八木 浩二 (海上自衛隊横須賀地方総監海将)

吉田 圭秀 (防衛大学校長)

福本 拓也 (海上保安庁)

第三管区海上保安本部長

永本 和寿 (国土交通省海難審判所長)

熊上 尚男 (運輸安全委員会横浜事務所長)  
宿利 正史 (日本海事センター会長)  
井関 俊夫 (東京海洋大学長)  
佐々 明 (海技教育機構理事長)

## ◎式電をいただいた方々(敬称略)

齊藤 鉄夫 (中道改革連合顧問)

鹿沼 均 (厚生労働省社会・援護局長)

齋藤 聡 (防衛省海上幕僚長 海将)

藤澤 正人 (神戸大学長)

國枝 佳明 (富山高専専門学校長)

三村 治夫 (鳥羽商船高等専門学校長)

逸見 真 (広島商船高等専門学校長)

藤本 隆士 (大島商船高等専門学校長)

内田 誠 (弓削商船高等専門学校長)

折野 勲 (福岡海寿会会長)



日本殉職船員顕彰会 池田潤一郎会長



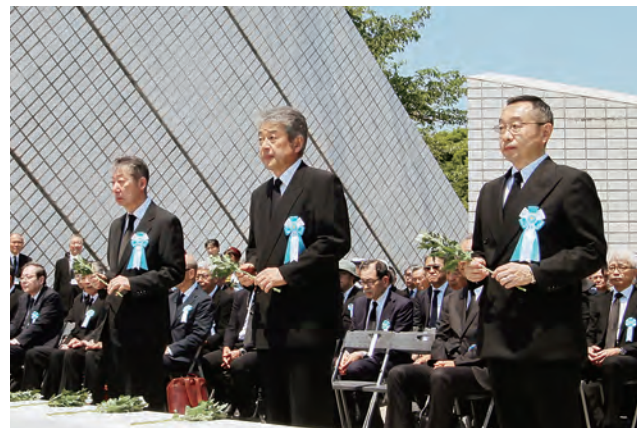
佐々木紀国土交通副大臣



遺族代表の中田さん、里見さん、石川さん、島さん(左から)



松浦海員組合組合長(右)・酒井海友婦人会会長



枝元大日本水産会会長・加藤日本船主協会副会長  
宇佐美海事振興連盟事務局長(左から)



八木横須賀地方総監、吉田防衛大学校長  
福本第三管区海上保安本部長（右から）



田中横須賀市長顧問、五十嵐横須賀土木事務所長  
佐塚横須賀南警察署長（右から）



献花を捧げるご遺族



永本海難審判所長、熊上運輸安全委横浜事務所長  
宿利日本海事センター会長、井関東京海洋大学長  
佐々海技教育機構理事長（右から）



海上自衛隊横須賀音楽隊



献花を捧げるご遺族



# 初めて参列した皆様のお話し

■ 薄井智子さん (東京都)



■ 木内由貴子さん (神奈川県)



観音崎公園で戦没船員の慰霊式が行われていることは知っていましたが、今回、初めて参列しました。大叔父(薄井辰巳)が船乗りで、戦争で亡くなったことは知っていたのですが、両親も詳しいことは教えてくれず、今回、日本殉職船員顕彰会に連絡して、初めて亡くなった時の状況が分かりました。

能代丸という船に乗って一等操舵手をしていました。浅間丸に便乗して亡くなりました。この追悼式典で、戦争の犠牲となった大叔父の魂が安らかにと、祈りにきました。

今日の追悼式典には、父親と妹と一緒に3人で来ました。今回が初めての参列です。祖父が船員であり、戦争で亡くなったことは知っていましたが、亡くなった時の状況が分からなかったもので、日本殉職船員顕彰会に連絡して、当時の状況がわかりました。第12郵船丸に機関部として乗船して、サイパン島で空襲を受けて亡くなったようです。横須賀の観音崎公園で、亡くなった船員の追悼式典が行われていることを教えていただき、亡くなった祖父を想い、家族で参列しました。

## 能楽「海霊」奉納

第53回戦没・殉職船員追悼式で、遠くに太平洋、眼下には船舶が行き交う東京湾口の浦賀水道を望む「戦没船員の碑」において、観世一門による能楽「海霊」が奉納された。



## 「海霊」の由来

先の大戦において国に殉じた船員の数には実に6万余名にも達しました。能楽「海霊」は、戦没船員と生死を共にされた、宮越賢治船長が、これら戦没船員の霊を慰め、その徳をあきらかにし、併せて平和を祈るために作られたものであります。

その元の歌詞は、明治37年、とき国際情勢を憂慮され、世界平和を祈念された明治天皇の御製「四方の海みなはらからと思ふ世になど波風

の立ちさわぐらむ」を配して平和への指標としたものであります。

昭和46年3月、神奈川県立観音崎公園内(横須賀市)に「戦没船員の碑」が建立され、同年5月6日、皇太子同妃両殿下(現上皇皇后両陛下)の行啓のもとに第1回戦没船員追悼式が挙行されるにあたり、宮越賢治船長の作詞、25世観世左近正師の作曲による能楽「海霊」を奉納する予定でしたが、雨天のため観音崎ホテル大広間で演じました。

それ以来、追悼式典には必ず「海霊」が宮越賢治船長をシテとして観世一門によって奉納されることになりました。

宮越賢治船長は、昭和61年に亡くなられ、その後は観世一門により絶えることなく奉納されております。





■女性(担当・案内・献花・リボン)  
数年ぶりにお手伝いに参加させていただきましたが、大切な行事に参加できる貴重な機会を、これからも大事にしたいと思います。

海洋少年団でお世話になった息子も社会人になり、卒業して15年も経ちますが、未だにご縁をいただけることが嬉しく思います。

追悼式が、これからも末永く続きますよう、祈念申し上げます。

■女性(担当・案内・献花)

毎年仕事をお休みさせてもらっての活動ではありますが、貴重な経験と思っ

て参加させていただいておりました。年々列席者の数も減少傾向、運営サイドの人材も変動がある中でも、皆様が故人への追悼の念で、本式典が執り行われていることは、とても大変なことだと思います。微力ながらそこに携わることができたことは、光栄なことだと感じます。

今後殉職される方がゼロにはならないと思います。ですからこの式典が、これからもずっと続けられるよう、それにより故人の冥福をいつまでも祈ることができると良いなと思います。

■男性(担当・車両)

この度、戦没・殉職船員追悼式に運営として参加し、改めて海上輸送の発展と国民生活を支えてこられた戦没・殉職船員の方々の尊い犠牲に深い敬意と感謝の念を抱きました。

今回の経験を通じて、平和と安全の尊さを改めて認識するとともに、海運業界に携わる者として、戦没・殉職船員の方々への追悼の思いを胸に日々業務に励みたいと思います。

■男性(担当・受付)

式典に参加するたびに、戦争により尊い命を失われた方々、そしてご遺族の皆様のご心情に思いを致し、改めて平和の尊さと戦争の悲惨さを深く感じています。

現在の国際情勢に目を向けると、世界各地で緊張や紛争が続いており、平和な社会が決して当たり前のもではないことを改めて認識させられます。そのような中、本追悼式は戦争の記憶を風化させることなく後世へ伝え、平和への願いを共有する大変意義深い機会であると感じています。

また、戦争による犠牲や悲しみは、国や地域を問わず多くの人々に深い影響を及ぼします。だからこそ、過

去の歴史に学び、平和な社会の実現に向けて一人ひとりが考えることが重要であると考えます。

追悼式がより多くの方々知られ、平和について考える契機となることを願うとともに、日本人として忘れてはならない歴史と記憶を次世代へ継承するため、今後も微力ながら協力してまいりたいと思います。

■男性(担当・案内)

昨年に続き、戦没・殉職船員追悼式にお手伝いという形で参加させていただきました。

前回とは違い、今回は来場された方々を案内するお手伝いをさせていただき、観音崎バス停にてご参列される皆様を会場へと誘導いたしました。

案内のお手伝いをしながら、私たちが今、当たり前に送っている平和な毎日や暮らしは、海で一生懸命に働いてこられた多くの方々のおかげで成り立っているのだと、強く胸に響きました。亡くなられた方々へ心からお祈りを捧げるとともに、この大切な式典を少しでも支えることができたことに感謝いたします。

海の安全への願いと、今回感じた感謝の気持ちを、これからもずっと忘れずに大切にしていきたいです。

戦没・殉職船員追悼式は関係団体と個人協力者の支援で運営されています

▽横須賀海洋少年団(9人)▽東京海洋大学海事普及会(15人)▽全日本海員組合本部(6人)▽全日本海員組合関東地方支部「海友会」(2人)・「木洋会」(2人)▽日本船主協会(2人)▽大日本水産会(2人)▽海洋会(2人)▽日本内航海運組合総連合会▽全日本船舶職員協会▽日本船舶機関士協会▽日本船長協会▽日本海事広報協会▽日本水先人会連合会▽海技振興センター 以上各1人▽個人協力者(5人)に日本殉職船員顕彰会(6人)が加わり、今回は58人で実行委員会を構成しました。(順不同)

### ■男性(担当・受付)

海運には関わっていても、仕事によつて命を落とされてきた方々がいることや、そのご遺族の方についてしつかりと考えることがなかったため、今までの視野の狭さ・見識不足について恥ずかしく思うとともに今後の業務にあたつてはその背景も意識して行こうと感じました。

また、式典の運営にあたり協力してくれた大学生のやる気あふれる姿を見て、私自身も元気づけられました。亡くなられた先人の皆様も後進の活躍を目にして、安心されたのではないだろうかと思います。

年々気候が暑くなり、ご遺族の方の高齢化もあつて運営・実施が大変になっていくであろうと考えられましたが、式典を機に先人を思い起こし、また私たちが見識を広めるためにも是非式典は今後も開催をいただきます様お願いいたします。

### ■女性(担当・案内・献花)

昨年に引き続き、今年も実行委員の立場から戦没・殉職船員追悼式の運営に参加させていただきました。式典の進行を支える中で、海上に満ちる厳粛な雰囲気や、参列されるご

遺族の深い祈りを肌で感じ、この追悼式が持つ社会的・歴史的な意義の大きさを改めて認識いたしました。

私たち東京海洋大学の学生が実行委員を務めることは、単なる式典の補助にとどまりません。海を学び、これからの海と共に生きる者として、先人たちの尊い志や日本の海運を支えてきた悲痛な歴史を正しく理解し、広く社会へ伝えていくたいせつな役割を担っているのだと強く実感しています。

先人たちへの心からの感謝と哀悼の意を常に心に刻み、平和で安全な海のたいせつさを次の世代へ繋ぐ架け橋となれるよう、今回身をもって感じた責任感を、日々の大学生活や海事普及会での今後の活動においてもしっかりと形にしていきたいと考えております。

### ■男性(担当・受付)

今回、初めて実行委員として戦没・殉職船員追悼式に参加した。前日の袋詰めから始まり、当日朝の設営のお手伝い、係の仕事、そして帰りの誘導と長時間にわたって追悼式の運営に携わった。ご遺族の方をはじめとして、海事業界の各分野から

多くの方々が出席され、追悼式がいかに重要な儀式であるかを認識した。また、私は一般受付を担当したが、名簿に記載されていない地元の方々や飛び入りで出席する様子をよくお見受けした。海上自衛隊地方総監部が置かれていて、旧海軍時代から軍港として栄えていた横須賀の方々の、追悼式への関心の高さを感じることができた。

この追悼式に、海事普及会、ひいては旧東京商船大学の学生である私たちが参加するということは、大変意義のあることである。最後に、戦時中および戦後に、戦没・殉職された船員の方々のご冥福をお祈りするとともに、海が安全でそして平和な場所であり続けることを心から願いたい。

### ■女性(担当・受付)

戦没・殉職船員追悼式に学生ボランティアとして参加し、受付での名札配りを担当いたしました。

当初は単純な作業と考えていましたが、来場される多くの方々と接する中で、海事産業を支えられる人々の層の厚さと、式典の持つ重みを肌で感じました。前日の準備から当日まで、普段の学生生活では関わるこ

とのない多くの海事関係者の方々と交流できたことは、私にとつて非常に有意義な経験となりました。

私は将来、船に乗ることを目指して海洋の学びを深めています。多くの方々の真摯に祈りをささげる姿を拝見し、海難事故や安全の意識は決して他人事ではないと強く実感しました。諸先輩方が築いてこられた歴史や安全への思いを受け継ぎ、今回の貴重な経験を今後の学業や実習に活かしていきたいです。

### ■女性(担当・案内・献花)

昨年に引き続き、参加させていたいただきました。実行委員の方々は顔見知りという方が多く、安心して自分の担当をすることができました。

毎年、海事普及会は実行委員の一員として参加させていただいており、特にこのような厳かな場で設営・受付などを任せていただける経験は本当に貴重な経験だと感じております。

戦争や凄惨な事故の歴史は変えることができませんが、次の世代にこのような事実を伝えることはできるので、海事普及会としてそのような役割を担うことができたらいと思います。



実行委員の皆さん



マイクロバスに荷物を積み込む



供物の袋詰め作業



式典後、帰りのマイクロバスを待つ参列者の皆さん



受付の準備



## 殉職船員2名

### 戦没船員の碑に奉安

商船や漁船などに乗船中、海難および職務上の事故などで殉職された船員の調査は毎年行われ、ご遺族の了解が得られた方のご芳名と没年月日を浄書した名簿を「戦没船員の碑」に奉安いたします。

全国には、まだ奉安されてない多くの方々がいるものと考えますが、個人情報保護の下で情報の入手が困難な事に加え、ご遺族の了解が得られないケースも少なくありません。

奉安することにより、費用が発生することはありません。

また、遺児（漁船を除く）に援助金を支給する制度があります。

本年 4 月 24 日、追悼式を前に、次の殉職船員 2 名を、神奈川県立観音崎公園「戦没船員の碑」（横須賀市）に浄書した名簿を奉安いたしました。

令和 8 年 5 月 14 日、「戦没船員の碑」で執り行われた第 53 回戦没・殉職船員追悼式で全国から参列した方々から、鎮魂の祈りが捧げられました。

里見 音松 様（千葉県）  
里見 正義 様（千葉県）

## 行幸啓お成りの碑を増設

昭和 46 年、「戦没船員の碑」が建立された同年に、皇太子同妃両陛下（現上皇・上皇后両陛下）のご臨席を賜り、第 1 回戦没船員追悼式が挙行された。

以来、皇室の方々が「戦没船員の碑」に、お成りになられたことを、観音崎公園に訪れる来園者に、広く周知するため、平成 22 年 6 月 4 日、第 40 回戦没・殉職船員追悼式の記念事業として、「行幸啓お成りの碑」が建立された。

この碑に、平成 27 年 6 月 10 日、第 45 回戦没・殉職船員追悼式に、天皇皇后両陛下（現上皇・上皇后両陛下）のご臨席を賜ったことを刻字したが、余白がなくなってきたことから、同規模の碑を、増設することを理事会、評議員会で決定した。

○平成 30 年 9 月 14 日

高円宮妃久子殿下

○平成 31 年 1 月 21 日

絢子女王殿下（現守谷氏夫人）

天皇皇后両陛下

○令和 5 年 5 月 24 日

（現上皇・上皇后両陛下）  
第 50 回追悼式

天皇皇后両陛下

を、刻字した「行幸啓お成りの碑」（増設）を、令和 8 年 2 月 23 日に建立した。



「行幸啓お成りの碑」 既存の碑（右側）、増設した碑（左側）

## 「戦没船員の碑」から

### 富士山を望む

本年 2 月、「戦没船員の碑」で、「行幸啓お成りの碑」増設工事に立ち会っていたところ、観音崎公園を散策していた高齢のグループが、「今日は富士山が綺麗に見える！」と叫んでいたの、指さす方向を眺めると富士山が、少しぼやけて見えた。

「戦没船員の碑」から、富士山が望めることを、今の今まで知らなかったの、感激しながら、進徳丸の錨付近からスマホで富士山を撮った。



## 遺児たちを守る支援制度

### 殉職船員遺族援護 遺児へ援護金を支給

『戦没船員の碑』が昭和46年に建立されてから10年間、戦没船員追悼式を毎年5月に執り行っていました。

この式典が戦没船員の追悼に限られていたことから、同じ海の戦場に命を捧げた商船や漁船等の殉職船員の慰霊についても配慮してほしいとの要望が高まりました。

これを機に、すべての殉職船員に慰霊の誠をあらわし、その業績を顕彰するとともに、海洋永久の平和を祈念するための『戦没・殉職船員追悼式』を国民的行事として行うことにより、国民の海洋精神の高揚を図り、海洋立国の認識を深めることを目的として、戦没・殉職船員の業績調査と、その功績を後世に伝える戦没・殉職船員遺族の援護にあたるために、昭和56年4月に「戦没船員の碑建立会」の事業を継承して、財団法人として日本殉職船員顕彰会が発足しました。（平成23年公益財団法人の認定を受け、移行登記する）

当会の殉職船員遺族援護事業は、昭和58年に外航船13人・内航船7人の殉職船員遺児に対して給付が行われてから、平成2年の外航船59人・内航船63人・旅客船13人・その他9

人をピークに漸減しています。

海難や労災事故はあつてはならないことですが、殉職船員遺児援護制度を知らないために苦境におかれていては大変です。

個人情報保護の関係から事故情報を取りにくい状況にあります。

船社や業界関係団体の積極的なご協力をお願いいたします。

### 返還義務のない制度

当会の殉職船員遺族援護事業は、商船などに乗船中、海難や労災事故で殉職した船員の遺児に援護金を給付する制度で、返還の義務はありません。

支給額は1人月額8千円のほか、入学記念品代として小学校入学時に3万円、中学校入学時と高校入学時には、それぞれ1万円を給付します。

支給期間は、遺児が生まれてから義務教育および高等学校を終了するまで。詳しくは、当会事務局まで。

漁船乗組員の遺児の方は、漁船海難遺児育英会（☎03・3518・6121）が援護事業を行っていますので、お問い合わせください。

## 殉職船員

### ご遺族からのお便り

■ 織田有瑠さん（広島県）



いつもお世話になっております。今まで、私の成長をサポートしてくださり、感謝しております。

今日、父と母が結婚式を挙げた翌日に行ったというお店でランチをしました。にぎやかだったこの地は、きれいに整地され、新しい未来へと向かう場所になっていました。しかし、そのお店は当時のにぎわいのまま営業され、広い海やたくさんのお客様が見え、たくさんのお客様が楽しく食事をされていました。当時の父の気持ちや想像しながら、パスタやピザをおなかいっぱい食べました。

今、私は、高校三年生です。近所の人や今までお世話になった方から、「父にそっくり。」と言われるようになってきました。少し遠回りしましたが、今は、夢に向かって歩んでいます。『夢・挑戦・達成』の言葉を胸に、10kmのマラソン大会に出場、

一人で関東の大学のオープンキャンパスに参加、バイト、そして、毎日の学校生活を楽しむことができるようになりました。

今年は、大学合格と東京マラソンに出場を目標に、自分の力を伸ばしていきたいと思っています。感謝の気持ちや新しいことに挑戦する気持ちを大切に、努力していきます。今まで、本当にありがとうございました。

2026年5月24日

■ 織田幸恵さん（広島県）

明けましておめでとうございませう。

思春期になったとたん、悩んだり、伴走したりといういろいろありました。が、その全てが経験となり自分であろうと決めたことができるようになりました。

感謝の気持ちを大切に、私も明るく生きていこうと思います。

いつもありがとうございます。

■ 佐藤亜希さん（青森県）

中学校生活も早いもので残り1年です。修学旅行もあるのですが、たくさん楽しい思い出を作っています。

来年には、高校生になります。息子の成長がとても早く感じます。身長もとても大きくなりすぎてビックリです。とても心の優しい子に成長してくれて嬉しく思います。

いつもありがとうございます。

# 終戦記念日 献花式



## お知らせ

公益財団法人日本殉職船員顕彰会  
電話 03・3234・0662

終戦記念日（8月15日<sup>土</sup>）に観音崎公園「戦没船員の碑」で献花式を行います。

ご案内するのは、当会役員など約90人ですが、参列を希望される場合は、バス等の関係から日本殉職船員顕彰会に必ずご連絡ください。

▽午前11時10分京急「馬堀海岸駅」横須賀馬堀海岸郵便局前集合 ▽11時15分マイクロバスで戦没船員の碑へ ▽同45分慰霊碑の献花台前に整列 ▽「全国戦没者追悼式」のラジオ実況放送に合わせて総理大臣式辞 ▽12時黙とう、戦没・殉職船員の御霊を追悼し、海洋永久の平和を誓います。

▽同02分天皇陛下のお言葉を聞き、閉式となります。

服装は、白ワイシャツ（半袖可）に黒ネクタイの軽装でお願いします。

例年、当会の役職員のほか、海事関係者や当会元役員など40人余が参列し哀悼の誠を捧げます。

## 戦没船員の功績等の調査

事例紹介

本会の事業の一つに戦没船員の功績等の調査があります。先の大戦において戦時徴用船で輸送業務にあたり、尊い命を犠牲にされた戦没船員は分かっているだけで6万643人にのぼり、観音崎公園にある「戦没船員の碑」には浄書した名簿が奉安され、毎年5月中旬の追悼式典で戦没・殉職船員の慰霊を行っています。ご遺族をはじめ親類縁者や関係者の中には、いまだ知らない方々も多く、戦没の状況まで知っている方は、さらに少ないといえます。本会は、こうしたご遺族の方々からの問い合わせにお応えし、調査情報の提供を日常の業務として行っています。その中の事例を紹介します。

### ■女性（戦没船員遺族）

祖父が乗っていた船、戦没時の状況を詳しく知りたい。また、戦後、同じ船に乗っていた生存者の方が、祖母を訪ねてきたと聞いている。可能ならその方の子孫の話を聞きたい。

### 【回答】

おじい様は、O商船H丸（海軍徴用船・貨物船）に特務機関士（機関員）として乗船されていました。

H丸は、シンガポールで、ボーキサイト、重油、陸海軍人、便乗者を乗せ、徴用船11隻で編成した「ヒ48船団」で門司に向けて航行中、H丸は昭和19年3月18日、南シナ海、香港南東300キロ付近で、米潜水艦の魚雷攻撃を受け爆発による大火柱を上げ全没し、便乗者8名、警戒隊25名、船員64名のうち55名が戦死されています。なお、当会では生存船員の方々の名簿は所持していませんが、ご要望にお応えすることができず大変申し訳ございません。

### 【お礼のメール】

資料をいただき、このように記録されている事は有難いと存じます。特に事故報告書はあまりの壮絶な状況に嗚咽しながら拝見しました。そして重油にまみれながら救助を待った方々の苦しみを想像し胸が詰まる思いでした。

祖父は、私たち孫の顔どころか、4人目の子を見ることなく亡くなりました。こんな悲しい歴史を繰り返してはなりません。どんな事があっても戦争をしたり戦争をする国の協力をしてはいけません。

戦後何年経とうが、さかのぼれば戦争で亡くなった方が一族におられるはず。戦争で亡くなった親族を身近に感じる事ができる世代が、しっかり後世に語り継いでいかなければなりません。私にもその責任があると自覚を新たにしました。平和を希求する人々の輪が広がっていくことを願います。

## 皆様のご厚情に感謝申し上げます

令和7年11月1日以降、令和8年6月30日までの間に、次の方々に新たに賛助会員として加入いただきました。

また、次の皆様からご寄付をいただきました。厚く御礼申し上げます。

当会の事業運営は、基本財産の運用益のほか、会員からの会費や寄付金、海運・水産・旅客船などの会社および海事関係団体からの会費や補助金などで、戦没・殉職船員の慰霊・顕彰とご遺族への援護事業を支えています。

### 会員制度には、賛助会員と協賛会員があります。

■賛助会員には、「法人」と「個人」があり、年会費は◎法人賛助会費110万円、◎個人賛助会費110万円をお願いしています。

■協賛会員は「個人」にお願いしているもので、年会費は103千円です。

当会は、税制上の優遇制度による税額控除の対象法人です。当会への寄付金（賛助・協賛会費、献花料等）は、確定申告を行うことにより、「所得控除」「税額控除」の対象となり税金の還付が受けられます。

なお、当会は消費税の免税事業者であるため、インボイス（適格請求書）発行事業者ではありません。

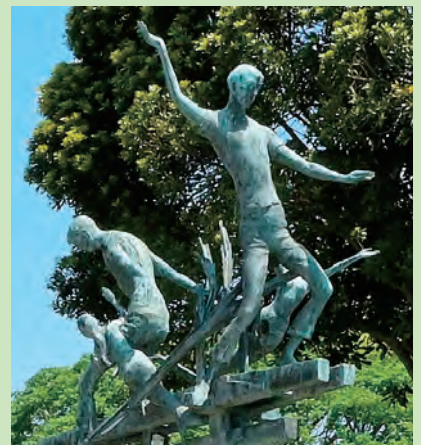
### 新たな賛助会員

（順不同）

○里見景一様（神奈川県横浜須賀市）  
○谷水一雄様（東京都練馬区）  
○井上登志仁様（神奈川県横浜浜市）  
**追悼式献花料**  
（順不同）

○加賀城福男様（香川県仲多度郡）  
○榮貴代様（神奈川県三浦市）  
○保木登茂子様（大阪府豊中市）  
○新田尚子様（山口県宇部市）  
○松下正勝様（岡山県岡山市）  
○中野昭男様（愛知県名古屋市）  
○峯永紀子様（兵庫県神戸市）

○榎原登美子様（大阪府吹田市）  
○梶野多恵子様（福岡県宗像市）  
○後藤美津子様（神奈川県横浜浜市）  
○今田小夜子様（埼玉県川口市）  
○山藤浩子様（広島県広島市）  
○和田洋子様（福島県河沼郡）  
○石川眞佐子様（栃木県下都賀郡）  
○島一角様（神奈川県横浜須賀市）  
○山本隆様（山口県下関市）  
○木内由貴子様（神奈川県川崎市）  
○福本健治様（神奈川県横浜須賀市）  
○瀬川マツエ様（神奈川県三浦市）  
○織田恒様（広島県東広島市）  
○里見景一様（神奈川県横浜須賀市）  
○中田まつみ様（東京都板橋区）



板橋区）  
○里見一矢様（千葉県南房総市）  
○全日本海員生活協同組合様（神奈川県横浜浜市）  
○横須賀市東部漁業協同組合様（神奈川県横浜須賀市）  
○鳥羽商船高等専門学校様（三重県鳥羽市）  
○富山高専専門学校様（富山県射水市）  
○大島商船高等専門学校様（山口県大島郡）  
○広島商船高等専門学校様（広島県豊田郡）  
○弓削商船高等専門学校様（愛媛県越智郡）  
○宮越健郎様（東京都杉並区）  
○（一財）全日本海員福祉センター様（東京都港区）  
○千葉政俊様（千葉県松戸市）  
○山本学様（東京都足立区）  
○荒谷秀治様（神奈川県横浜浜市）  
○（一財）船員保険会常勤監事金子浩行様（東京都渋谷区）  
○豊丸漁業有限会社様（神奈川県横浜須賀市）  
○（一財）日本航路標識協会様（東京都千代田区）  
○（一財）船員保険会会長岡部修様（東京都渋谷区）  
○（公財）海技資格協力センター様（東京都千代田区）  
○（一社）日本中小型造船工業会様（東京都千代田区）  
○東郷会様（東京都渋谷区）

区）  
○（一社）外航船員医療事業団様（東京都千代田区）  
○荒川博様（東京都三鷹市）  
○米山香様（東京都北区）  
○折野勲様（福岡県福岡市）  
○五十嵐温彦様（神奈川県大和市）  
○平山義昭様（千葉県成田市）  
○多胡明美様（東京都小金井市）

### 終戦記念日供花料

○米山香様（東京都北区）

### 一般寄付金

（順不同）

○白石千春様（大分県大分市）  
○富田隆滋様（大阪府池田市）  
○猪股貞雄様（東京都清瀬市）  
○額正憲様（岐阜県可児市）  
○石井康一郎様（神奈川県横浜浜市）  
○織田幸恵様（広島県東広島市）  
○トーマス・ミラー株式会社様（東京都千代田区）  
○荒川博様（東京都三鷹市）  
○折野勲様（福岡県福岡市）

### 知られざる民間船舶の悲劇

### 戦時徴用船遭難の記録画展

### 寄付金

（順不同）

○堀江耕太郎様（神奈川県横浜浜市）  
○荒川博様（東京都三鷹市）

### 遺族援護寄付金

（順不同）

○加賀城福男様（香川県仲多度郡）  
○関洋一郎様（福岡県福岡市）  
○新田尚子様（山口県宇部市）  
○長澤美子様（群馬県前橋市）  
○山口英文様（大分県中津市）  
○伊藤光一様（福岡県北九州市）  
○武智静様（愛媛県伊予市）